



37 ルーマニア コンスタンツァ 南港整備事業

港整備により急増するコンテナ取扱量に対応し
ルーマニアの経済発展に貢献

承諾額／実行額	128億円 / 93億200万円
借款契約調印	1998年2月
借款契約条件	金利2.7% (コンサルティングサービス部分は2.3%)、 返済30年 (うち据置10年)、一般アンタイド
貸付完了	2005年1月
実施機関名	コンスタンツァ港湾庁 URL: http://www.portofconstantza.com/apmc/index.jsp

本事業の目的

ルーマニア最大の貿易港であるコンスタンツァ港において、南港地区第2埠頭のコンテナターミナルおよび関連施設を整備することにより、急増するコンテナ取扱量への対応をはかり、同国の経済発展に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) **a**

本事業にて新規建設されたコンテナターミナルのコンテナ取扱量は、2005年実績で設計取扱能力である約33万TEU*を突破し、翌2006年の取扱量は約87万TEUに達した。これは、需要の大幅な伸びに伴い、ターミナル・オペレーターが追加的に自己資金にてクレーンほかの荷役機器の購入、コンテナヤードの拡張等を行っているためである。クレーン1基あたりのコンテナ取扱効率は、本事業実施前は10個/時程度であったのに対し、2006年実績では20個/時以上まで増加した。また、本事業でコンテナ母船が利用できる施設を整備したことにより、コンスタンツァ港は黒海のコンテナハブ港として機能するようになり、欧州とCIS諸国やアジアとの物流拠点として発展しつつある。コンスタンツァ港は発展に伴い、同港を置くコンスタンツァ郡では、造船業、海運業、石油精製業、製造業等が発展してきており、コンテナ貨物についても輸出の増大傾向がみられ、本事業がルーマニアの経済拡大に貢献していると考えられる。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性

本事業アウトプット概観



は高い。

*TEU=サイズの異なるコンテナの量を、長さ20フィートコンテナに換算した時のコンテナ個数で表す単位。

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) **a**

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性はきわめて高い。

事業実施の経済性(効率性) **b**

本事業は、事業費については計画を下回ったものの(計画比64%)、期間が計画を上回ったため(計画比136%)、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延の主な要因としては、コンサルティングサービス開始の遅れ、2003年の冬が厳冬だったことによる工事・調達の遅れなどが挙げられる。

今後の展望(持続性) **a**

本事業は実施機関の能力および維持管理体制とともに問題なく、高い持続性が見込まれると評価される。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は非常に高いといえる。本事業の教訓として、需要の高い伸びが見込まれるコンテナターミナルを建設する場合は、運輸省等と適切な連携をはかり、コンテナターミナルと接続する内陸輸送網の整備も平行して行うことで、インパクトを最大限にできることが挙げられる。

開発途上国専門家の意見

本事業は、コンスタンツァ港の地理的位置づけから非常に重要な事業であり、有効性も高い。事業効果最大化のために、同港を経由する道路、鉄道等のインフラ整備が望まれる。

専門家の氏名: Mr. Aurelian Dochia (エコノミスト)
ルーマニア科学アカデミー博士(経済学)。元国家民営化庁長官。
現在は、ルーマニア開発銀行(BRD) 理事、ルーマニア経済政策センター理事等を務める。専門は経済。